

# 着任に際して

## 巻・頭・言

特許庁技術懇話会 代表委員 近野 光知

当会は、昭和9年の創設以来、今年で86年目を迎えます。伝統を守りつつ、時代の変化に合った新たな活動も進めていきたいと思ひます。

事務局となる常任委員会は、代表委員、副代表委員及び代表幹事が各1名、常任委員5名、これを補佐する常任幹事5名により構成され、会誌「特技懇」の編集は、副代表委員と編集委員5名が担当しています。また、各職場では、部代表や課室の幹事にお手伝いいただいています。

その主な活動内容は、会誌「特技懇」の発行、懇親会の開催、そして、平成27年度末に開設した会員サイトの管理であり、これらの活動を通して、当会は、会員相互の親睦と研さん、地位の向上を図り、特許行政に寄与することを目指しています。会誌「特技懇」は、昭和25年の第1号以降、庁内外の有識者による産業財産権に関する記事を掲載して参りましたが、平成30年度アンケート調査（会員サイトで集計結果を公開中）では、産業財産権以外の内容に対する要望も高く、専門性だけでなく気軽に読めて為になる記事を増やす誌面づくりを期待されているように感じています。また、会員サイトは、会誌「特技懇」の閲覧や会員検索などができ、庁舎が分散している現在は、代議員総会にも利用されています。より一層、会員の皆様にご利用いただけるように、その利便性の向上や魅力あるコンテンツの検討を行って参ります。また、会員の皆様におかれましては、会員サイトへのログイン時や異動時に、会員情報の所属や勤務先を更新するよう、ご協力をお願いします。

さて、私の特技懇との出会いは、審査官補の頃に、企画、国際等のテーマ毎にグループに分かれて行って

いた当会の勉強会です。審査部横断的に、月に2~3回のペースでランチタイムに集まり、調査結果や提言を発表し、討論していたと思ひます。リーダーを務める併任経験のある先輩方が、即座的確なアドバイスやコメントをする姿に憧れながら参加していたのを覚えています。また、会誌「特技懇」の執筆者は、この二十数年の間に、私の先輩や同僚から後輩にあたる方々へと移り変わっていますが、いつも、その業務の困難さや専門性の高さに驚きながら読んでいます。振り返ると、私は、二十数年に亘って、当会の活動により多くを学んでいたように感じます。

私たちは、入庁後、指導官の温情に触れながら育ちますが、自然な成長を妨げる過保護な育成は敬遠され、恐る恐る自ら経験することで視野を広げ、そこで遠くを見渡して考えることを繰り返し、一人前になっていくように思ひます。審査官昇任後は、自分ひとりでは誰しも成長を持続することは難しく、私自身も、周囲からの刺激や励ましを受けながら、関心を広げたり、モチベーションを維持したりしています。当会は、会誌「特技懇」の発行や会員同士が交流する機会を提供して、幅広い会員の皆様の研さんを支援していきたいと思ひます。

この度、思いがけず、代表委員を務める機会を得て、当会の創設以来、当会の発展を支えてきた先輩諸氏の熱い志に改めて思いを馳せると、その責任の重さをひしひしと感じますが、私を支えてくれる、若くして行動力がある常任委員会のメンバーと力を合わせて、正会員および特別会員の皆様のご期待に沿えるように活動して参りたいと思ひます。そして、これまで私を育ててくれた当会への恩返しになれば幸いです。

よろしくお願ひします。